

手縫糸の糸はじき
三重短大 伊藤五子

目的 被服縫製の省力化が進み、手仕事の分野はかなり狭まってきたが、家庭縫製においては、縫う、くける、まつる等の作業が多々ある。縫い糸を用いる場合、糸の巻きぐせを直したり、糸がからまって結びのできるのを防ぐ目的で、縫い始める前に、糸をはじいて使用することが従来から行なわれている。

そこで糸をはじくことが縫糸の性能にどのような変化をよえるか、また、はじくことに意味があるのかなど疑問を持ち、この実験に着手した。

方法 数種の縫い糸を用い、和裁の経験が3～4年で、常に糸をはじいて使用している人と、全く糸をはじいたことのない学生とが、それぞれはじいた糸と、はじかない糸について、糸の見かけの太さ、捻数、荷重伸長曲線などを測定し、比較検討した。

結果 縫い糸ははじくことにより糸の伸びが見られ捻数は減少する。また絹の縫い糸ははじくことにより捻数のパラツキは少なくなる傾向で、捻りは安定して、表面がなめらかになるものと思われる。はじかれた糸のヤング率は、はじかない糸より大きくなり、経験者のはじいた糸の方がその性能変化が大きい。